高齢者の豊かな生活のために　　２０２１年３月１日発行

手 賀 沼 通 信（第２７６号）

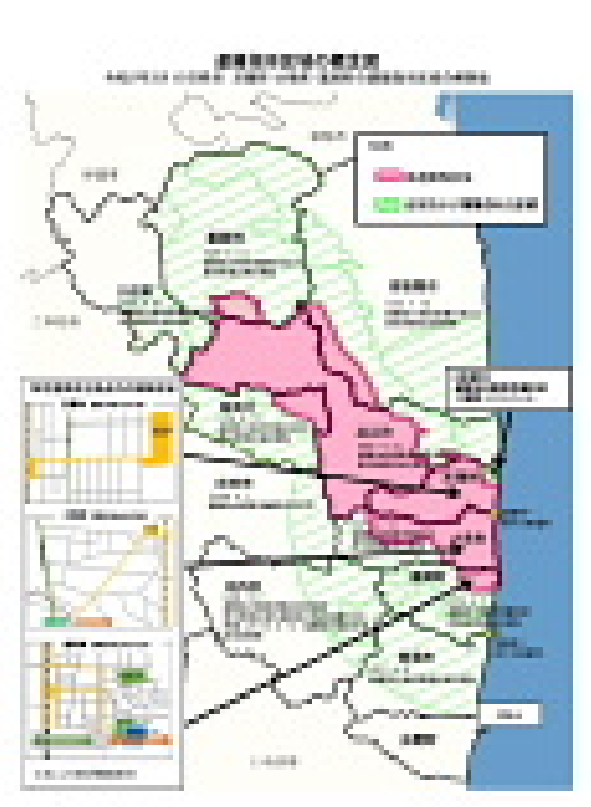
Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

何度も手賀沼通信に投稿いただいている大川豊さんから旅行記を２編いただきました。昨年秋に福島と伊勢神宮に行かれた記録です。ありがとうございました。

昨年１１月に寄稿いただいていたのですが、私の編集の都合で今月になってしまいました。申し訳ありません。６ページに拡大しています。

特別寄稿
福島原発災害ツアー２０２０　　大川豊

10 月の 27 日から 2 泊 3 日で福島の原発災害地域を巡った。今年の 3 月に常磐線が全線開通したので、行ってみたいと思った。あれこれ調べて、東電第一原発に近い双葉郡の楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町を通る浜通りの国道 6 号線を友人達と車で走ることにした。



国道 6 号線

前日いわき湯本に 1 泊し、翌日いわきから 6 号線へ入った。最初の印象は、道路脇の人家には住民が暮らしており、普通の街中の道路とあまり変わらない。ただ、ショベルカーやブルドーザーなどの建設重機がよく目についた。

富岡町へ入り、夜ノ森駅へ近づいたあたりで、帰還困難区域へ入った。道路脇には困難区域の立て看板が立ち、歩行、軽量車両の走行禁止と書いてあった。道路の両側はススキや背高泡立ち草など雑草が生い茂り、人家に人の気配はない。道路沿いのドライブインやコンビニなども柵で封鎖され、荒れ放題の店もあった。また、国道と交差する脇道も封鎖され、入らないように警備員が監視している。これでは列車で来て駅で降りても周辺を歩くことができないだろう。車で来て正解だった。双葉町を過ぎ浪江町に入ったあたりで困難区域は解除された。この間、富岡町から浪江町までおよそ 15 ㎞ほどであった。

困難区域を出てから、双葉町にある海沿いの東日本震災・原子力災害伝承館へ行った。見学後は浪江町で昼食をとり、また 6 号線へ入り、来た道を戻った。再び困難区域を通り抜けてから、富岡町の道路沿いにある東電の廃炉資料館を見学した。そして、楢葉町にある J ヴィレッジで 1 泊した。翌朝、再び 6 号線を北上し、廃炉資料館の手前にある特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしまを見学。それから、6 号線を南下し、いわき市へ戻り、

常磐道へ抜けて帰路についた。

東日本震災・原子力災害伝承館

双葉町と大熊町の境にある福島県の施設で、今年の 9 月に開館した。文字通り震災と原発災害を伝承する施設。伝承館と食堂や売店のある事務棟があり、付近は田畑をつぶした広場で囲まれていた。おそらく今後記念公園として整備されるのだろう。駐車場には数台の大型バスがとまり、福島県などの中学生がたくさん見学に来ていた。館内のそれぞれの展示エリアでは地元の解説員がいて丁寧に説明してくれる。

東京電力廃炉資料館

原発災害の実態や廃炉への歩みなどを説明した東電の施設。小グループ単位で説明員が案内してくれる。説明は映像が中心だった。燃料デブリを取り除く様々なロボットがおもしろい。ちょうど世間では溜まり続ける汚染水が問題になっており、近々閣議決定がなされるという。地域の心配をよそに、東電は海洋放出を提唱しているせいか説明に力が入っていた。

特定廃棄物埋立情報館　リプルンふくしま

環境省の施設で、除染で出る廃棄物の処理について細かく説明してくれた。土壌や瓦礫、伐採された樹木など汚染物に区分けがあることを初めて知った。放出される放射線が基準値より低いものを特定廃棄物といい、高いものを中間貯蔵廃棄物という。中間というのは全国を対象に最終処分場を検討しており、それまでの間の保管物だからだそうだ。

土壌や瓦礫は細かく裁断され固められて特殊なポリプロピレンの袋に入れられ、焼却処分された灰などはコンクリートで固められ、特定廃棄物は双葉郡にある処分場に埋め立てられ、中間廃棄物はこれも双葉郡にある中間貯蔵施設で保管されるそうだ。まだ「中間」なのがなんだか情けない。

Ｊヴィレッジ

Ｊヴィレッジはサッカーのトレーニング施設だったが、震災時は原発事故対応や廃炉作業の拠点として使われ、よく知られている。それが、一昨年復興のシンボルとして再開発され、常磐線にも新駅「Ｊヴィレッジ」ができ、今年のオリンピックの聖火リレーの出発点になっていた。今回は合宿所を兼ねたおおきなホテルに宿泊した。なんと緑の芝生を張ったサッカーコートが 9 面もあり、りっぱなスポーツ施設として復活していた。

ツアーを終えて

今回国道 6 号線を巡ってみて、次のことが強く印象に残った。

一つは、いまだにかなり広範囲に帰還困難区域が残され、封鎖されており、許可がなければ入れないことに驚いた。鉄道や国道が開通したので、もう少しまわりを見て回れるのかと思っていたが、甘かった。

二つは、6 号線は車のフロントに特定廃棄物運搬車という幕を付けたダンプやそのほかのダンプが頻繁に往来しており、まだまだ多くの人々が復興作業や除染作業をしていることが感じられた。心なしか周辺に新築のアパートらしきものが多いように思えた。なかには連れ込み風モテルに全室月決めという但し書きがあり、苦笑した。

最後に、帰還困難区域を除くと、楢葉町、富岡町や浪江町は多くの人達が生活しており、車窓からでは普通の市町村とあまり変わらないように思え、少しホッとした。

来年、Ｊヴィレッジから聖火が走り出す時には、大熊町や双葉町も走れるとよいのだが。

（２０２０年１０月３０日　記）

特別寄稿
伊勢神宮ー心のふるさとの旅　　大川豊

GOTO を使って友人達と伊勢神宮へ参拝に出かけた。新幹線で名古屋へ向かい、そこから JR 参宮線に乗り換えて伊勢市駅へ。そして、まず駅からタクシーで神宮の博物館へ出かけた。

神宮の博物館

近鉄五十鈴川駅近くの倉田山の森の中に博物館が３つと倭姫神社がある。

神宮徴古館は日本で最初の私立博物館で、伊勢神宮の歴史と文化を紹介する。

神宮徴古館

神宮農業館は日本で最初の産業博物館で、神宮に供える神饌（しんせん）を紹介する。

神宮農業館

神宮美術館は近現代の美術・工芸家から神宮へ奉納された美術品が展示されている。

神宮美術館

倭姫神社

倭姫（やまとひめ）は第 10 代崇神天皇の皇女で、諸国を巡り、神意により伊勢に神宮を創建した。

別宮（倭姫宮）

神宮外宮（げくう）

外宮の鳥居

翌日、伊勢市駅の参道を歩き、外宮へ参拝した。始めに正宮を参拝。正宮には食事を司る衣食住、産業の守り神である豊受大御神が祀られている。それから別宮の多賀宮、土宮、風宮を巡り、神楽殿を経て勾玉池へ戻った。池の側に遷宮館があり、20 年ごとに行われる遷宮について紹介している。

正宮（豊受大御神）

別宮（多賀宮）

おはらい町、おかげ横丁

外宮の参拝を午前中に済ませ、バスでおはらい町へ向かった。五十鈴川沿いに内宮の門前まで 500mほど古風でレトロな装いの商店街が並ぶ。土産物屋、お菓子屋、喫茶、食堂や酒屋などが軒を並べ、参拝客で混雑していた。コロナの中、平日だったが休日並みの人出で驚いた。

おはらい町の中ほど、あんこ餅で有名な赤福本店の辻でさらに狭いおかげ横丁と交わる。横丁では店の前の縁台で多くの参拝客が伊勢うどんを食べていた。我々もここで昼食をとった。

おはらい町

神宮内宮（ないくう）

おはらい町を出て、鳥居をくぐり宇治橋を渡ると内宮へ入る。外宮よりさらに大きなこんもりとした森に囲まれている。

宇治橋から内宮へ

橋を過ぎて少し行くと川辺に五十鈴川手洗場があり、ここで手を清めて正宮へ向かう。正宮は皇大神宮といい、天照大神が祀られている。参拝後、別宮の荒祭宮、風日祈宮を巡り、神楽殿でお守りを求めた。また、宇治橋の近くの子安神社と大山祇神社へ寄って、内宮の参拝を終えた。

参道の巨木

正宮（皇大神宮）

伊勢神宮は内宮、外宮ともに深い森に抱かれ、境内にはヒノキや杉の大木が多く、清逸の気が漂う。これらの森は一見すると手付かずの原始林のように見えるが、神域を保つよう保護されてきたのだろう。

別宮（荒祭宮）

（２０２０年１１月１８日 記）

手賀沼通信ブログ抜粋

人口減と東京一極集中の行きつく先は？（ＮＯ．１３７２）（令和２年８月１０日）

令和２年８月５日総務省は住民基本台帳に基づく今年１月１日現在の日本の人口を発表しました。

日本人の人口１億２４２７人、人口減５０万５０４６人で、人口減は初の５０万人超１１年連続の減少となっていました。

その他の数字も昨年１２月に厚生労働省が発表した内容とほとんど変わりません。２つの省が同じようなことをやっている効率の悪さと無駄がある割には、コロナで国民に１０万円を配布するときに見せたシステムとデータベースのお粗末さを改めて感じさせました。

でも今日はそのことを話題にするのではありません。

ここで問題にしたいのは東京一極集中です。

４７都道府県のうち人口が増えたのは、東京都、神奈川県、沖縄県の３つだけであとは減少しています。東京都は６万８５４７人の増加で、最も減少した北海道と兵庫県の減少数を合わせたくらいの数になっています。

全国の自治体のうち出生数が１０人未満の自治体は９６町村に上ります。この傾向が進めば全国で廃村や廃町になるところが続出してきます。生徒数の減少で廃校になった学校は数多くありますが、今までは、人がいなくなった町や村は、採れなくなった鉱山や伐採が禁止された山などにある場所でした。今後は人口の自然減でなくなる自治体が出てくるのです。美しい日本が荒れてくるのは悲しいことです。

日本は国会議員は両議院とも人口割の選挙区から選ばれるという珍しい国です。参議院議員が人口に比例した選挙区から選ばれるのはほかにはイタリアくらいです。選挙をやるたび憲法違反で訴えられるでしょう。日本はそれを正すため、議員定数を減らすのではなく増やしています。人口減少に対して議員増加というバカなことをやっています。

一極集中は農業や漁業を衰退させます。地方の職場がなくなり、若者はますます首都圏に集まります。教育の集中、雇用の集中につながります。

一時話題になっていた首都移転も現実問題になってくるかもしれません。私たち高齢者世代は消えゆきますが、若い世代には問題解決に頑張ってもらうしかありません。

ついに第３のビールが値上げに（ＮＯ．１３８３）（令和２年９月２３日）

令和２年１０月１日にビールの新ジャンル商品（第３のビール）が３５０ミリリットル缶が１０円値上げになります。

ビール類の税率が変更になるためです。３５０ミリリットル缶の第３のビールの税率は２８円から３７.８円に値上げされ、代わりにビールの税率は７７円から７０円に下がります。これは２０１４年１０月に発表された酒税の統合方針が今年の１０月に動き始めたということです。

２０２３年１０月には第３のビールの税率は発泡酒と同じ４６.９９円に上がります。その際ビールの税率は６３.３５円に下がります。そして６年１０月には３つのビール類の税率は５４.２５円に統一されます。

なぜこんな複雑なことになったのでしょうか。そもそも最初にビールが市場に出た時、ビールは日本酒や焼酎と比べると贅沢品とみなされました。そのためビールの税率は他の酒類間で群を抜いて高額な税率を課されました。国際的にみてもビールの税率はドイツの１７倍、アメリカの１０倍となっています。

そこでビール会社はビールを安く飲んでもらおうと、いろいろ知恵を絞って税率の低い発泡酒や第３のビールを創り出してきました。ところが、政府・与党は税収の下がることを恐れビール類の酒税を高値安定に統一することに決めたのです。２０２６年の統一税率でも、日本の税率はアメリカの７倍、ドイツの１４倍になります。日本酒やワインは２３年１０月に３５円に統一されるので、約２０円ビールが高くなります。ビールが大衆の飲み物になったにもかかわらず、一番人気のあるビールの税率がなぜか一番高いのは変わりません。取りやすいところから取るという政府の考えなのでしょう。

我が家ではビールと第３のビールを購入し、気分によって飲み分けていますが、１０月１日の税率見直しによって多少消費金額が増えます。第３のビールを少し買いだめしました。